



# Beauty Wave



SOUTH AREA

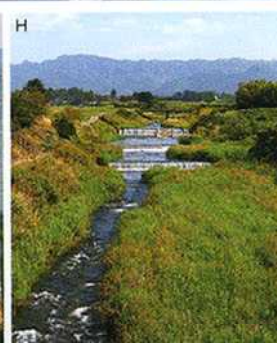
NORTH AREA

台風を追って、急遽ハワイから九州に飛んだフォトグラファー近藤公朗。南は宮崎から北は唐津まで、海塾士をはじめとするクルーたちと波を求めて駆け抜けた奇跡の一週間。

撮影 / 近藤公朗 Kimiro Kondo.  
文 / 海塾士 Akira Umino.  
キャプション / 伊久良城二 George Ikura.

A: 宮崎を愛するヤス(杉原康幸)。彼はとてもピースフルなサーファー。伊良湖出身だが、今では宮崎をも代表する存在になって来た。Yasuaki Sugihara.  
B: 天気さえ良ければ、こんな素晴らしいロケーションがいつも広がる宮崎。  
C: 日南サーフエリア創始者、川畑さん(川畑龍一氏)が経営する、ロジジ'n' tribeにて、心地良い風が吹く中、波乗り談話中。日南に宿泊する際は、ゆっくり、くつろぐ事が出来る場所だ。  
D: 初日のセッションとなった日向エリア。長い海外線に思われる宮崎県は北から南へとそれぞれ違った顔を見せる。サイズが上がると常にドルフィンして行かなければいけないのがこのエリアの特徴である。  
E: 宮崎エリアを代表するソウルサーファー孝一君(池田孝一氏)が、最も大切にしているビーチブレイクでもあるシークレットビーチ。このポイント名は明かす事は出来ないが、世界的に有名なカメラマン近藤さん(近藤公朗氏)は、この取材で19番ホールと名付けた。スモールウェイブからビッグウェイブまでサーフ可能だが、サイズが上がるとエキスパートオンリーのポイントへと変身する。宮崎の個々のレベルの高さはこの環境の中から生まれてくるのだ。  
F: 「おーい! いい波乗って来いよー! シャカブラ。」  
G: 夏の終わりの素晴らしいプレゼントが届いた唐津。  
H: 今は珍しくなってきた、のどかな川。産業廃棄物が流れる河もあれば、こんな綺麗な川もある。

I: 唐津の名産でもあるイカ。透き通った色はまさに芸術作品だ。  
J: 波が上がれば必ずその日一番のポイントでサーフする孝一君(池田孝一氏)と妻の美紀子さん。孝一君の動物的自然により、僕たちは素晴らしい波に出会った。Kohichi Ikeda&Mikiko.  
K: 最終日の大浦で、ここで生まれ育ったショウヘイ(川畑匠平)と僕との2ショット。彼の言った通り、この後、波は次第に良くなり、最高のサーフセッションとなった。George Ikura&Shohei Kawabata.  
L: 宮崎屈指のビッグウェイブ、ケンゴ(中道謙吾)は2本の板を折る突っ込みを見せながらも、まだまだ物足りない様子だった。Kengo Nakasako.  
M: 唐津の船上からポイントを見つめるアキラ(海塾士)は、宮崎エリアから唐津まで、休む事なく波を当てまくった。Akira Umino.  
N: 湘南、千葉のキッズが注目されがちだが、九州、宮崎にも素晴らしいキッズが育って来ている。渡辺寛は現在小学5年生だが、近い将来、度肝を抜くようなサーフィンを見せるだろう。Hiroshi Watanabe.  
O: チューブフリークのポニー(窪田聡)は、ひとつたびスイッチが入ると、凄いラインで波を攻めてくる。Satoshi Kubota.  
P: 歴史ある唐津を長期に渡って見守り続けるプレゼンサーフボードのゼンさん。今回の唐津では、貴重な思い出を頂いた。Zenu Higashijima & Teruyuki Mori&Akira Umino





## SOUTH AREA

### ドライブスルー九州編

夏休みも終わって、さびしい気持ちになりよった頃「近藤さんが明日ハワイから宮崎に入るゲナ(らしい)…」との連絡が入り、そんな噂は一瞬にして九州中のローカルサーファーたちの耳に入っちゃった。そして、思い思いの行動がとられちゃった。近藤さんに同行させてもらう者もおれば、ホームブレイクで待つものもおる。

今回、僕が近藤さんに会えたのは日向でじゃった。地元で近藤さんが来てくれたことが、とても嬉しかった。いつもはハワイにいる近藤さんだが、わざわざ台風を追い掛けてこの地に来てくれたっちゃから…。

ここからが始まりで、九州の波が打ち止めになるまで走り続けることに。ヘッヘッヘッ、ラッキー！ というわけで今回は私、海塾士がドライブスルー九州編のレポートをするのでござる。

### 夢のような一週間の扉

1日目は日向。波のサイズは胸から頭オーバー。2ヶ所のポイントがセッションの場として選ばれた。日向のローカルヒーローと九州のトッププロによるスーパーセッションにギャラリーも盛り上がりちゃった。

ここで日向の歴史を紹介するばい。日向は昔から漁業、林業が盛んな港町。古くは神武天皇が船で京の都に向かった地としても知られる。そして海軍発祥の地でもあるとす。近年までは川崎、大阪、神戸、広島など、あらゆる路線のフェリーが日向港に着いちよった。じゃから、たくさんの全国の先輩サーファーは日向の町を知っちゃよと思う。波がいいのもネ。あっ、あと焼

酎がうめえ〜。伊久良城ニプロがサポートしてもらっちゃる焼酎。あれオススメ！ 名前は「あくがれ」。社長もサーファーばい。こうしている間にも波高はぐんぐん育っていった。

### 未知との遭遇

2日目は日向からぐっと南へのドライブとなったとす。なんじゃこりゃ〜！ 僕もたいがい九州のポイントは知っちゃるつもりじゃったけど、まだまだあるとばいねえ〜。無人のブレイクが。

中迫プロや東川プロ、杉原プロ、川畑プロ、他にもたくさんのプロが早々に刃のようなボードを脇に抱えて、未開の波が割れる海へと入っていく。あまりに日本離れたロケーション、不気味にブレイクする無人のパーフェクト・シリンダー。このチューブから近藤さんが「アナコンダ」と命名した。薩摩藩からも近い場所に位置していることから、日頃は物静かでも怒らせると怖い侍サーファーが多いので注意。この特集を読んでくれちゃるサーファーのみなさんなら心配いらずじゃろ〜が、くれぐれもサーファーとしてのモラルやロコに対するリスペクトの気持ちを忘れずに、よろしくとす。人の家上がる時は「おじゃましま〜す」でしよ。これ、オレは母ちゃんに習った。



A: この日南エリアを今後引っ張って行くのは、間違いなくこのショウヘイ(川畑匠平)だろう。千葉で修行の後、ここ大浦でプロになり数年が過ぎた。みんなから親しまれる性格で、ショウヘイも家族が出来、楽しそうに日々暮らしている。やはり、原点となるものはシェイパーである父とのリレーションシップによるもので、このライディングがその全てを物語っているようだ。Shohei Kawabata.

B: 日南を代表する、大浦ポイント。ここ数年、波が上がるとかなり混雑するようになって来たと言う。駐車場は裏の広場へ止める事。トイレは貴重な水を近くの貯水池から引っ張って来ているので大事に使う事。ここでサーフィンする時は、それぞれが、もう一度再確認して人が多い時は時間帯をずらして入る等、気配りが大切である。



Beauty Wave





# 九州

*Beauty Wave*

**SOUTH AREA**

日南のさらに南にあるスーパーブレイク。このエリアは、いつ来ても穏やかな時間が流れている。この取材ではシンジ（水元真二）を始め、ローカルの皆さんのご協力のもと、幸運にも行く事が出来た。このロケーションと波を見た時、自分たちもその光景に、一目を釘打ったが、実は水質調査ワースト5位以内に毎年ノミネートされる河口で、間違えて水を飲んでしまうと大変危険な事になる。上流には、いったい何があるのだろうか？